今回発表を行った臨床電気生理研究会は、不整脈を専門とする者にとっての言わば「登竜門」的な研究会です。通常の不整脈関連の研究会・学会よりも、より心臓電気生理学の現象について議論を深める研究会であり、発表時間よりも質疑応答時間の方が長いといいった特徴があり、全国各地から心臓電気生理を専門にする重鎮の先生方が集まる会です。（杉先生も以前に同研究会の会長を務められています）

今回私が発表を行った内容は、特発性心室頻拍(いわゆるベラパミル感受性頻拍)についての症例報告です。ベラパミル感受性特発性心室頻拍(ILVT)は、頻拍中のQRS波形やアブレーションの成功部位によって、①左脚後枝型、②左脚前枝型、③上部中隔型、④乳頭筋近傍型に分類され、一般的には①が最も多く(臨床的に多くみる右脚ブロック＋左軸偏位型の頻拍)、今回発表を行った③の上部中隔型ILVTは非常に稀であるといわれています。今回の発表では、同頻拍のアブレーション中にみられた電気生理現象に考察を加えて症例報告を行いました。

ちょっとした心内心電図所見から、より深い心臓電気生理現象を読み取り考察する、といったEPSの醍醐味を痛感した症例でした。今後も、日々の症例を大事にして研鑽積みたいと思います。